

事業者行動(計画・変更計画・報告)書

2023年 7月 31日

(宛先)
滋賀県知事

提出者

住所(法人にあつては、主たる事務所の所在地)
滋賀県東近江市種町1494番地

氏名(法人にあつては、名称および代表者の氏名)
東洋製罐株式会社滋賀工場
工場長 水嶋 武志

滋賀県CO₂ネットゼロ社会づくりの推進に関する条例

第25条第3項・第25条第4項
第27条第1項・第27条第2項において準用する同条例
第26条第1項
第27条第2項において準用する同条例第26条第1項

第25条第4項の規定に基づき [事業者行動計画を策定 (変更) 事業者行動報告書を作成] したので、提出します。

事業者の氏名 (法人にあつては、名称および代表者の氏名)	東洋製罐株式会社 代表取締役社長 本多 正憲
事業者の住所 (法人にあつては、主たる事務所の所在地)	東京都品川区東五反田2-18-1 大崎フォレストビルディング

1 事業者の概要

事業所の名称	東洋製罐株式会社滋賀工場					
事業所の所在地	滋賀県東近江市種町1494番地					
主たる事業	日本標準産業分類 細分類番号	2	4	1	1	※ 産業分類・細分類名称を記載 ブリキ缶・その他のめっき板等製品製造業
事業の概要	金属缶・蓋の成型及びその素材となる塗装板の生産					
従業員の数	145	人	操業時間	24	時間/日	
該当する事業者の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量が、年間1,500キロワット以上の事業所を県内に有する事業者 <input type="checkbox"/> 従業員数が21人以上であつて、エネルギー起源二酸化炭素以外の温室効果ガス排出量が、二酸化炭素換算で年間3,000トン以上の事業所を県内に有する事業者 <input type="checkbox"/> 任意提出事業者					
主要な設備	ボイラ	4	台	熱源設備	3	台
	コンプレッサ	3	台	空気調和設備	31	台
				照明設備	153	箇所
				その他		

2 計画期間(および報告対象年度)

計画期間	開始年度	R3	年度	報告対象年度	R4	年度
	終了年度	R5	年度			

3 計画の(内容・実施状況)

計画の(内容・実施状況)	別添のとおり
--------------	--------

注 用紙の大きさは、日本産業規格A列4番とします。

1 CO₂ネットゼロ社会づくりに係る取組に関する基本的な方針

東洋製罐株式会社は、品質マネジメントシステム(QMS)・環境マネジメントシステム(EMS)・食品安全マネジメントシステム(FSMS)の活動を、さらに「活きたシステム」として運用し、当社の業績に貢献するために活動を一元化した「統合マネジメントシステム(TMS)」として、2013年7月に統合(複合)認証を取得しました。総合容器メーカーとして企業活動、製品及びサービスに関して環境を常に認識し、環境汚染の予防と環境負荷の低減に努めるとともに、環境マネジメントシステムを構築するために必要な組織を整備し、環境目的及び目標を定めて実行し、定期的なレビューと必要に応じて改訂を行い、環境マネジメントシステムの継続的改善を図ります。

(1) 当社の環境側面に関係して全社または各事業所にて適用可能な環境関連法規制、及びその他全社または各事業所が受入れに同意した要求事項を順守し、環境管理の向上に努めます。

(2) 当社の活動、製品及びサービスに関わる環境側面の中で、以下の項目を全社的な環境管理重点項目として取り組みます。

- ① 生産する容器のライフサイクルにわたる環境負荷の低減を意識し、環境に配慮した製品の開発、販売及び技術開発を推進します。
- ② 企業活動全般にわたり省エネルギー・省資源に努めるとともに、発生する廃棄物の減量化、再利用を推進します。
- ③ 環境汚染物質に関しては、可能な限り代替物質への切り替えを推進するとともに、代替技術の採用を目指します。
- ④ 使用済み容器のリサイクル活動など、社会的活動に積極的に参画します。
- ⑤ 環境負荷低減のためグリーン購入を推進します。

(3) 本マネジメントシステムの組織に含まれる当社従業員、協力会社従業員でこの環境マネジメント活動を推進します。

(4) 本マネジメント活動に参画しているすべての人に対して、環境意識の高揚のための教育、啓発活動を行います。

(5) この環境方針を環境マネジメント活動に参画しているすべての人に周知します。また、この環境方針は一般の人に開示します。

2 取組の推進体制

別紙
統合マネジメントシステム体制組織図中央2023年度
統合マネジメントシステム体制組織図滋賀工場2023年度

3 これまでに取り組んできたCO₂ネットゼロ社会づくりに係る取組

環境管理活動数値化ができる目標

- ・エネルギー使用量原単位の削減(生産高原単位)
- ・二酸化炭素排出量の削減(燃料燃焼、溶剤燃焼、電気使用量の合計)
- ・材料使用量原単位の削減(生産高原単位)
- ・廃棄物総排出量の削減
- ・PRTR法対象物質の排出、移動量の削減
- ・VOC排出量の削減
- ・コピー用紙購入量の削減
- ・廃棄物サーマルリサイクル量の削減
- ・グリーン購入比率の向上(実績値)

工場建設時環境配慮型工場として

- ・井戸水の熱利用:一次エネルギー削減量3,564GJ/年 CO₂削減量176t-CO₂/年
- ・オープン排気の熱利用:一次エネルギー削減量9,900GJ/年 CO₂削減量495t-CO₂/年
- ・バランス排気の熱利用:一次エネルギー削減量1,845GJ/年 CO₂削減量94t-CO₂/年
- ・自然採光システム「どこでも光窓」の採用。
- ・最新の印刷設備を導入。従来数回要していたオープン通し回数を一回で製品が出来る様にした。これにより消費者使用時の容器1缶当たりのエネルギー削減に至っています。

(第2面)

4 自らの温室効果ガス排出量の削減に向けた取組

(1) エネルギー起源CO₂排出量の削減に向けた取組の内容等

	取組項目	実施計画		実績報告
		取組の内容	実施スケジュール	取組の実施状況
1	運用改善	エアコン使用量の削減(連続使用状態の回避)	R3~R5	R4年度削減推進できました
2	運用改善	電気使用量の削減(休転時の吸排気ファン停止)	R3~R5	R4年度停止目標達成しました
3				
4				
5				

(2) エネルギー起源CO₂以外の温室効果ガス排出量の削減に向けた取組の内容等

	温室効果ガスの種類	実施計画		実績報告
		取組の内容	実施スケジュール	取組の実施状況
1	排気ガス	出荷製品直送率の向上(新倉庫棟増築による場内在庫量増)	R3~R5	R4年度新倉庫棟運用で直送率向上達成しました。
2				
3				

(3) 上記の取組により達成しようとする目標および目標の進捗に対する自己評価

取組目標および目標設定の考え方	目標の進捗に対する自己評価
<p>上記(1)の取組などにより、R2年度を基準年度とし、以下の数値目標の達成を目指します。</p> <p style="text-align: center;">エネルギー使用量(原油換算) エネルギー使用原単位 = $\frac{\text{エネルギー使用量}}{\text{生産量}}$</p> <p>で毎年度1%削減</p> <p>【エネルギー使用原単位の考え方】 温室効果ガス排出量は、製品の生産量に大きく影響を受けるため、生産量を原単位の分母として設定しました。</p>	<p>R4年度は原単位12.92となりR2年度対比では98%で目標達成いたしました。R3年度との対比では106%となりました。生産数減+生産品目の多品種化による非効率化が進んだ影響と考えます。</p>

(4) 温室効果ガス排出量等の実績

	計画開始年度前年度の実績	実績報告					
		(R3)年度	(R4)年度	()年度	()年度	()年度	
原油換算エネルギー使用量	kL	5,328	5,125	4,908			
温室効果ガス総排出量	t-CO ₂	9,560	9,899	7,841	0	0	0
エネルギー起源CO ₂	t-CO ₂	9,560	9,899	7,841			
非エネルギー起源CO ₂	t-CO ₂	0	0	0	0	0	0
CH ₄	t-CO ₂						
N ₂ O	t-CO ₂						
HFCs	t-CO ₂						
PFCs	t-CO ₂						
SF ₆	t-CO ₂						
エネルギー等原単位の推移		13.13	12.18	12.92			

備考「温室効果ガスの種類別の排出量内訳」欄については、事業者行動計画の提出義務の要件に該当しない温室効果ガスの排出量は、記入する必要はありません。

(第3面)

5 再生可能エネルギー等の利用に関する取組

(1) 再生可能エネルギー等の利用に関する取組の内容等

■ 計画最終年度までの取組の内容等

	実施計画		実績報告
	取組の内容	実施スケジュール	取組の実施状況
1			
2			
3			
4			
5			

■ 中長期的な取組の内容等

	取組の内容
1	
2	
3	
4	
5	

(2) 所有する主な再生可能エネルギー設備

太陽光	kW	水力・小水力	kW	地熱	kW
太陽熱	kW	バイオマス	kW	その他 ()	kW
再エネ設備を効率的に利用する設備の導入実績					

(3) 再生可能エネルギー電気設備での発電量および自家消費量の実績

	計画開始年度 前年度の実績	実績報告				
		()年度				
再エネ電気設備での発電量	kWh					
上記のうち自家消費量	kWh					

(第4面)

6 事業活動を通じた他者の温室効果ガスの排出削減によりCO₂ネットゼロ社会づくりに貢献する取組

(1) 取組の内容およびその実績

取組の内容等	取組の実施状況
<p>○金属製品(容器)を通じた低炭素社会づくりへの貢献 滋賀工場では金属製容器(エアゾール缶)の製造と金属製印刷板(ブリキ板印刷)を製造しています。 当社の製品が直接的に貢献出来る物ではありませんが、容器材の板厚を薄くすることで、鋼材作成時及び製品が出荷される際の重量軽減化が運送にかかるCO₂排出の削減に寄与いたします。</p>	<p>R3年度以降一部製品にて容器材板厚削減の達成見込みがあり、実用化に向けて評価を進めています。</p>

(2) 上記の取組により達成しようとする目標および目標設定の考え方

目標および目標設定の考え方
<p>基準年(R2年度)の達成品を0としてR3年度以降の達成品の使用実績を基に以下計算式で達成率を算出します。</p> <p>達成率(%) = $\frac{\text{板厚削減達成した製品使用数(塗装作業実績)}}{\text{全製品塗装作業実績}}$</p> <p>各年度末での達成率見込みを目標値とし、進捗管理をしていきます。</p>

(3) 上記の取組にかかる目標の進捗に対する自己評価

目標の進捗に対する自己評価
<p>R3年度中より複数製品について板厚削減計画があり、評価を進めました。R4年度末時点で実現できた製品はありませんでしたが、切り替えの見通しが立った製品がありR5年度について進捗を見込んでいます。</p>

7 その他のCO₂ネットゼロ社会づくりに資する取組

(1) 調整後排出係数に基づく温室効果ガス排出量の推移

項目	単位	計画開始年度 前年度の実績	実績報告				
			()年				
温室効果ガス 排出量の推移	t-CO ₂						
【調整後排出係数】	kg- CO ₂ /kWh						
特記事項							

(2) クレジット等購入

項目	単位	計画開始年度 前年度の実績	実績報告				
			()年				
グリーン証書の購 入	t-CO ₂						
クレジットの購入	t-CO ₂						
特記事項							

(3) 通勤や出張など人の移動および物流における脱炭素化の取組等

	取組項目	実施計画		実績報告
		取組の内容	実施スケ ジュール	
1				
2				
3				

(4) 業務で使用する車輛の脱炭素化の取組

	項目	単位	計画開始年 度前年度の 保有台数	実績報告				
				(R3)年	()年	()年	()年	()年
保有車輛の数		台	2	2				
上記のうち 次世代自動車の数		台	0	0				
特記事項								

(5) その他のCO₂ネットゼロ社会づくりに向けた取組等

	取組項目	実施計画		実績報告
		取組内容	実施 スケジュール	
1	3R	発生する廃棄物の3Rを推進します。	R3~R5	R4年度マテリアルリサイクル率99.5%、サーマルリサイクル量0.5%でした。
2	グリーン購入	環境負荷低減のためグリーン購入を推進します。	R3~R5	R4年度グリーン購入比率79.8%を達成しました。
3	環境マネジメントシステム(EMS)	当社従業員、協力会社従業員で、TMS活動を推進していく為の教育、啓発活動を行います。	R3~R5	各月のTMS委員会や各種行事の中で活動内容、結果の共有を行っています。
4				
5				